平成１４年度
土砂災害防止に関する
絵画・ポスター・作文の受賞作品

●作文（中学生）の部　国土交通大臣賞

題名：「フクロウと共に　ー砂防を考えるー」
作者：「植松未知」

　この夏、北海道へ家族旅行に行きました。山では緑の木々が光り、どこに行くにも緑いっぱいの山道を通ります。私達は、気持ちのいい空気を胸いっぱい吸いました。
　ところが、ふと目を山に向けると、えぐれたような崖が……。あ、あそこにも。緑が続く中、突然緑がぶつっと途切れ、茶色の崖が現れます。きっと山が崩れた跡なのでしょう。
　洞爺湖の周りでは、道路は片側通行でした。崖崩れで抜け落ちた大木と土砂が道路をふさぎ、取り除くための作業が行われていたからです。父と母がそれを見て言いました。
「危なかったね。もし、通っているときに崩れてきたら。でも、木があんなにすっぽり抜けるなんて。土砂崩れってこわいね。」
　私は、それを見て『フクロウは誰の名を呼ぶ』という本のことを思い出しました。フクロウを保護するために木の伐採が禁止され、失業する木こりの一家とその一家に拾われたフクロウのヒナ。一家は仕事を奪ったフクロウを憎むのですが、ヒナを育てていくうちに、山を守る大切さ、自然と人間の共生について考えるようになるのです。木を切れば、フクロウが生きていけないだけでなく、土砂災害がおき、川がにごり、魚のえらに泥がつまって死んでしまう……。本の中で土砂災害がキーワードになっていたことを思い出したのです。一つのバランスが崩れると次々にバランスを崩してしまう。全ての物が影響を受けていくのです。
　崩れた山は木を育てません。フクロウは木を失ってしまいます。雨が降ると泥が川へ、川が海へ。川が短くて傾斜が急な日本では、川に流れ込む暇もなく、鉄砲水になったり、土砂崩れを起こしたり、山を崩してしまう……。
　少し先に行くと、道路の上にコンクリートの枠が張られ、土砂が流れるのを防いでいるのが見えました。あの枠は木の根を守り、山を守り、人間の命を守っているのだと思いました。
　山を守ることは、ふくろうの住む森を守ることであり、私達の命を土砂災害から守ることだと思いました。崩れた山を見て、土砂の力、土砂災害の恐ろしさ、そして、山を守ることについてを考えさせられた旅行でした。
　空港からの帰り道、小雨が流れ星のように窓に張り付いてきました。だんだん音が激しくなり、とうとう土砂降りになりました。窓にあたる大粒の雨。そして、ニ

ュースの声。
「今日午後七時ごろ、八幡町で土砂崩れが起きました。……。」
　被害は予想以上に大きく、翌日の新聞でも大きく取り上げられていました。原因はやはり昨日の大雨です。三千戸が停電し、国道も全面通行止めになったそうです。土砂崩れが起きたのは国道の北側にある山の斜面。高さ約四十mから幅約三十mにわたって崩れました。けが人、家が土砂につかり避難した人もでました。あんなに立派に堂々とした山が一瞬で崩れてしまうなんて。改めて、土砂災害の恐ろしさを感じました。
　土砂災害をインターネットで調べてみたらすごい件数でした。つまり、私達にとってすごく身近な災害だということです。その中で全国で土砂災害の危険がある十八万箇所のうち、二十五％しか整備されていないという報告がありました。「土砂災害を防ぎ安全な地域を造る砂防関係事業は人々の生活活動のあらゆるものの基盤を確保することであり、何ものにもまして優先的に実施していかなければならない」と書いてありました。
　でも、日本の地形を考えれば、危険箇所が無数にあることは十分理解できます。険しい山、少ない平地、急な川。水はあっという間に国土を駆け下ります。水はすごい力で土をえぐります。危険箇所を整備することは私達の生活の安全のために欠かせないことなのだと思いました。もしかすると、人間の動物としての危険を予知する力が、砂防の仕事の中で生きているのかもしれません。
　理科の先生が、こうおっしゃいました。
「いろいろな生き物が住むバランスは非常に微妙で、少しでも、何かが崩れるとバランスが保てなくなってしまう。そして、そのバランスを考えることができるのは人間だけだ。人間は、バランスを考えて自然を大切にしなければならない。」
　砂防。それは、一方で山を守りフクロウを育て、一方で私達の命を守る大切な仕事です。いろいろな生き物が住む私達の国土です。砂防の考えが、その両方のバランスをとり、両方の命を支える役目をしていることがわかりました。今、一番必要なのは自然と人間の共生を多くの人が『考える』こと、そして『実行する』ことです。日本のたくさんの山々にフクロウが住み、人間が安全に暮らすために。